

あたらしい仏教、利他行の考え

これまでのべてきた道登から重源につづくお坊さんたちは、みな寺の外で人々の善しみややみをへらそうとした人たちです。仏教では他人を助けるおこないを「利他行」といいます。このお坊さんたちは土木や建設の工事という大きな「利他行」によって人々を救い、仏のように誠実で公平な心で人々を導こうとしたのでした。しかしこのようならばらしい考えをもち行動したお坊さんが、まだまだ多くではありませんでした。

※利他行 自分ごとよりほかの人を助けることを先にする行いのこと。

讃岐（香川県）生まれの空海は、留学僧として唐にわたり新しい仏教を修めたうえ、工学や医学などさまざまな知識が記されている「五明の書」を写したものをもって帰国しました。

そのころ日本では、寺や僧の数がふえたのに、その田畑や土地からは税をとらないので、しだいに国の財産が少なくなり、そのために人々の生活は苦しくなっていました。

※五明 当時の実用全集。内明（仏教哲学）医方明（医療）声明（文学・説語学）因明（論理学・修辭学）工巧明（工作、曆学、数学）をいう。



大日如来像

こうした時に帰国した空海は、貴族や公家にとりって表面だけきらびやかに栄えている仏教のあり方をあらためようと、高野山にこもり修行をしました。そしてひそかに全国各地をめぐる、一部のえらい人のためではなく、苦しんでいる人々の願いとその生活に役立つような新しい仏の教えを人々にひろめていきました。

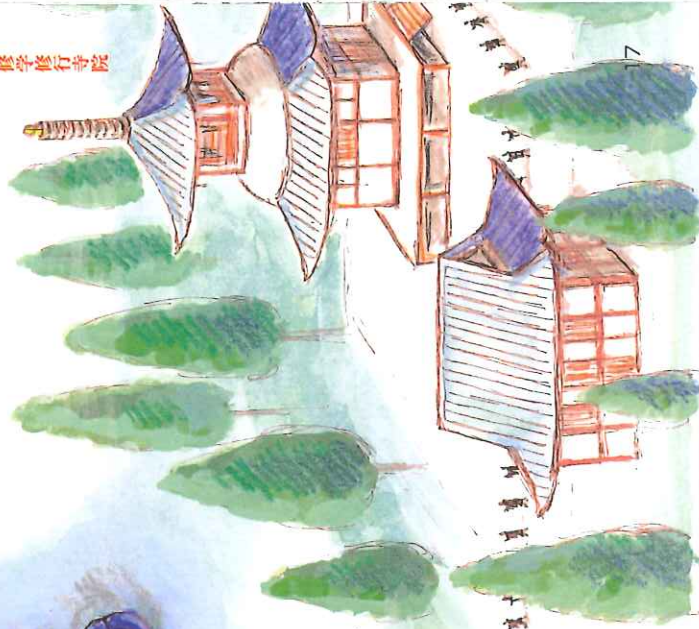
こうしてありがたい教えをとくお坊さんがいるというわさがしだいに人々の間に伝わっていきましたが、その間空海は行基を助けた技術者から教えをうけるなど、実際に役立つ土木の知識や技術をさらに身につけていきました。



空海

空海年表

- 714 (宝亀 5) 讃岐国に生まれる
- 804 (延暦23) 遣唐使について唐に渡る
- 806 (大同元) 帰国
- 809 () 4) 京の高雄山寺に入る
- 816 (弘仁 7) 嵯峨天皇から高野山をたまわると
- 821 () 12) 満濃池を修理
- 827 (天長 4) 大僧都に任ぜられる
- 828 () 5) 大輪田造船所別当となる
- 835 (承和 2) 高野山にて死去。62歳
- 921 (延喜21) 弘法大師の称号をおくられる



高野山修学修行寺院

農作の水かめ 満濃池

満濃池は香川県にある大きなため池です。雨が少なく、急な山地のこのあたりでは、農業の大切な貯水池でしたが、弘に9年(818)ごろ、その堤防がこわれ、あたりは大きな被害をうけました。

空海が改修したところの満濃池
(北西部から南東を見た図)

※大正年間(701~4)讃岐の国守
遣守朝臣がつくったと伝える。

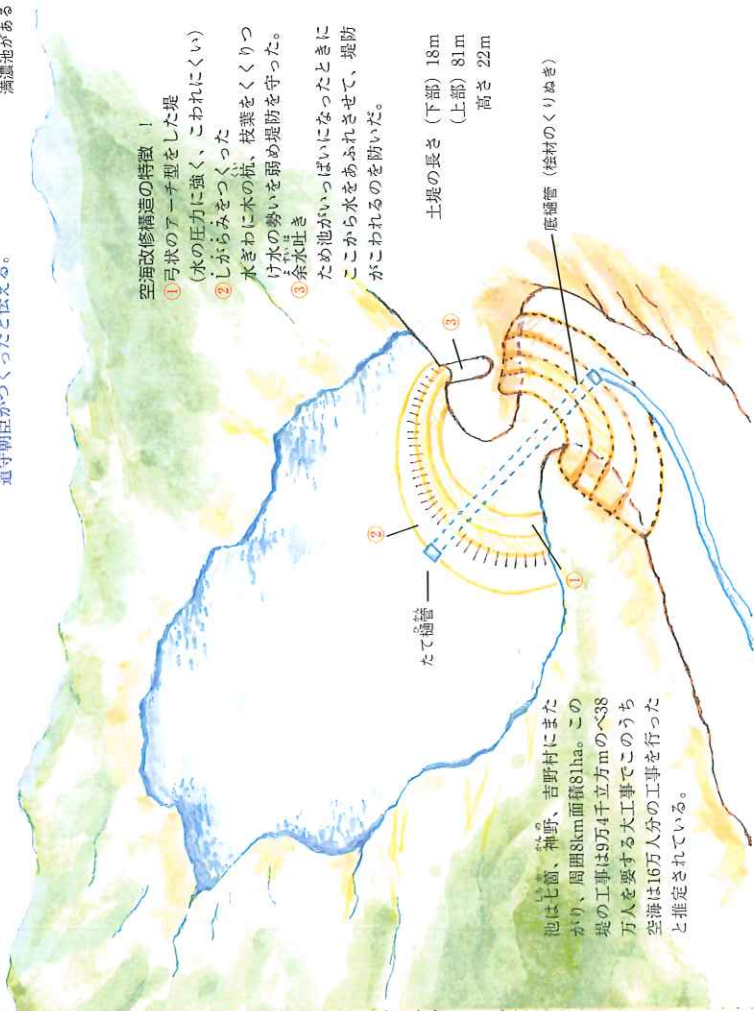
四国香川県の
丸亀市の南に
満濃池がある

空海改修構造の特徴！

- ① 弓状のアーチ型をした堤 (水の圧力に強く、こわれにくい)
- ② しがらみをつくった 水きわに木の杭、枝葉をくくりつけ水の勢いを弱め堤防を守った。
- ③ 余水吐き ため池がいっぱいになったときにここから水をあふれさせて、堤防がこわれるのを防いだ。

土堤の長さ (下部) 18m
(上部) 81m
高さ 22m

底層管 (松材のくりぬき)



池は七箇、神野、吉野村にまたがり、周囲8km面積81ha。この堤の工事は9万4千立方mのべ38万人を要する大工事でこのうち空海は16万人分の工事を行ったと推定されている。



役人が修復しようとしたが、集まる人も少なく、工事もうまく進みません。地元の農民や役人の願いで、空海が工事の責任者となり、弟子をつれて弘に12年(821)満濃池にやってきました。

池のまわりに集まってきた農民たちに空海は、農業と水の大切さと工事のやり方をわかりやすく話しました。心をひとつにした農民たちの働きによって、わずか3ヶ月で池の堤は出来上がりました。この土木工事によって、人々は米づくりが国をささえる大事な仕事であり、その水をためておく池の工事は、農民のくらしと国をささえる大切な仕事であるとはっきり知るようになりました。

※路貫人(路貫が築池使 (池の修復をつかさどる役人) となった。



農民に工事の大切なことを説く空海

かんがい池、港、そしてまちづくり



満濃池をなおした翌年の弘仁13年(822)空海は、奈良原の益田池の改修を弟子の真円におこなわせました。この池もかんがい用の池で、天長2年(825)までかかって出来上がりました。

※かんがい、田畑に水をひき、土地をうるおして、農作物の生産を高めること。

天長5年(828)になると空海は、大輪田造の別当(責任者)に任命されました。その地は、大阪、京都への荷物を運ぶ大事な基地として、行基がつくり、重源が港を修理した所です。空海は荷物がうまく運べるように港をさらに整えました。

このように土木工事の面でもほかの人が手におえなかった仕事をなしとげた空海は、たくわえた知識や力をそそいで、高野山一帯に寺や学校、修行所をもった仏教のまちをつくりあげました。そして承和2年(835)に死去した空海には、その功績をたたえて延喜21年(921)に弘法大師という名がおくられました。

※大輪田造 兵庫県にあって難波津(大阪港)に船が入る前の港を大輪田港といい、この港を管理する場所を大輪田造という。はじめ行基がつくり、後に半晴益が経ヶ島を築いて波を防ぎ、さらに重源が修理した。

※修雲種智院 空海が建てたわが国初の教育機関。庶民の子弟に仏教を教えた。
※弘法大師 空海にあたえられた称号

